

平成27年度 学校評価実施報告書

3 2回目評価

京都市立音羽中学校

| 重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 | | | | | | 自己評価 | | 学校関係者評価 | | |
|--|-------|----------------------------------|---|---|---|--|--|---------------------------------|--|--|
| ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定 | | | | | | 評価日 平成28年3月1日 | | 評価日 平成28年3月17日 | | |
| ・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理 | | | | | | 評価者・組織 運営委員会 | | 評価者(いずれかに○) 学校運営協議会 学校評議員 | | |
| 分野 | 評価項目 | 自校の取組 | アンケート項目・各種指標 | アンケート結果・各種指標結果 | | 分析 (成果と課題) | 自己評価に 対する改善策 | | 学校関係者評価に よる意見 | 学校運営協議会・学校評議員による改善 に向けた支援策 |
| 1 | 確かな学力 | わかりやすい授業の実践 家庭学習の習慣化 | コミュニケーション能力の育成 わかる授業の創造 学習確認プログラムの活用 | 教職員・児童アンケートの意識分析、研究協議会の授業考 保護者・生徒アンケート結果 | ⇒ | 「授業がわかりやすい」という生徒は前期とほぼ同数。「家で予習復習をしている」という生徒は、1年生で前期より減っているが、保護者の意識からは、まだまだ家庭学習は定着していない実態がみられる。「積極的に発表」「質問している」では、肯定的な解答は今回も低調で、積極的な取組に課題が残る。 | 授業に積極的に参加し、課題解決の意識を育てたため、授業の最初に『本時の目標』を掲げ、生徒自身が目的意識を持って授業に臨めるようすることが定着してきたが、さらに徹底して取り組みたい。 家庭学習の習慣化に向け、学習確認Pの効果的な活用をさらに進めたい。 | ⇒ | 以前に比べ、落ち着いた状況で授業が進められているようで安心している。 さらなる学力の向上を目指し、小学校からの中学への入学率をさらに高めて欲しい。 | 休日参観や自由参観などの機会に、できる限り学校に足を運び、見守っていきたい。 |
| 2 | 豊かな心 | 豊かな体験活動の実践 規範意識の醸成 | 学校行事等、体験活動の実践 規範意識の醸成 | 生徒感想文などによる意識調査 教職員・保護者・生徒アンケート | ⇒ | 文化祭や体育大会といった学校行事を通して、一つの目的に向かい人と協力する心、人を思いやる心などを育てることができた。 規範意識については、取組の成果が現れてきている。 | 年間を通して集会等で生徒が企画、進行出来るよう指導していき、自尊感情や自己有用感が育つようにする。 さまざまな体験活動によって得られる自尊感情や自己有用感の高揚を図るとともに、人の心を大切にし、しっかりとあいさつのできる生徒を育てたい。 | ⇒ | 体育大会や文化祭等の行事での中学生の取組は、迫力があり感動を覚えた。 登下校中の交通マナーなど、改善を図ってほしい面もある。 | 挨拶運動や美化活動についても協力していきたい。 |
| 3 | 健やかな体 | 基本的生活習慣の確立 | 保健委員会活動の活性化 | 生徒アンケートによる意識調査 | ⇒ | 「朝食を毎朝」は、9割とほぼ良好である。就寝時間の規則性は8割％、起床時間の規則性は9割が肯定的な回答で、おおむね良好であるが、就寝時間の規則性がやや弱く、家庭との連携が必要である。 | 基本的生活習慣の重要性について、保護者への発信をさらに充実させていきたい。「保健だより」の充実を図っているが、さらに、学級での指導も深めていきたい。 また、治療率も低いため、呼びかけを強化したい。 | ⇒ | 多くの課題は、家庭でのしつけがもとになっており、家庭・地域での取組が重要である。 家庭・地域と学校が連携を強めることが肝要である。 | 自治連組織やPTA活動等を通して、各家庭への意識喚起に協力したい。 |
| 4 | 独自の取組 | 小中連携教育の推進 生徒会活動の充実 情報発信の充実 | 小中合同研修会の実施 小中教務主任会の実施 リーダー研修会の実施 四宮児童館との連携(「赤ちゃんと遊ぼう」への参加) 学校ホームページ・学校だより・学年通信・学級通信等の発行 | 小中合同研修会の実施 小中教務主任会の実施 地域の教育資源の活用状況 学校ホームページ閲覧数 | ⇒ | 定例的に行っている小中教務主任会において情報交換を密にすることによって、小中相互の理解を深めることができてきた。 生徒会の取組も充実してきた。 学級通信・学年だより・学校だより・学校ホームページによる情報発信は定着している。 | 小中連携をさらに推進し、9年間の明確な目標を共有していく取組を推進するため、定期的に開催している小中連携主任による情報交換だけでなく、研究・生徒指導・人権教育・道徳など、分野別的小中交流会の開催も引続きしていきたい。 生徒会の取組のさらなる充実と地域との交流を図りたい。 学校からの情報発信のニーズは高く、さらに充実させていきたい。 | ⇒ | 学校ホームページを見ると、学校の様子がよくわかる。さらに充実したものにして欲しい。 | 今後とも学校からの情報を注視し、子どもたちをしっかりと見守っていきたい。 |

4 総括・次年度の課題

学校評価を通して、保護者や地域の方々に、本校の教育活動についての理解を深めていただくことができた。
次年度以降、今回の評価結果を生かしていくことができるよう、家庭・地域との連携をさらに一層深化させ、家庭学習の習慣化・学習への積極的な姿勢の向上などの具体的な取組を進めていきたい。
従来より重点的に取り組んできていた生徒指導の継続により授業規律・生活規律の向上が図られてきた状況であり、安定した授業規律・生活規律を基盤として、一人ひとりの生徒を徹底的に大切に、生徒の学習意欲の向上や教員の授業改善・指導力の向上を進め、生徒の学力の向上を徹底的に図りたい。そのために、分掌部会、教科会、校内研修などの工夫や充実を図って行きたい。
学校運営協議会について、教員の校務分掌に役割を明確にし、学校運営協議会がより活発に活動できるようにしていきたい。